

特別講演 2

「隠さない、嘘をつかない医療」

新葛飾病院 院長

清水 陽一 先生

今回の講演では、院長として行ってきたこと、さらに私の生きざまを包み隠さずお話できればと考えております。

団塊の最後の世代として、世の中を見聞でき、たまたま院長となり、自分の考えを実践できる機会を天は与えてくれました。恵まれていたといっても過言ではありません。

私の基本理念は、至極あたりまえのことで、「自分がかかりたい病院をつくる。患者の視点をもった病院をつくることです。」さらに病院の三原則として、1)「うそをつかない。隠さない、逃げない、ごまかさない。」 2)「情報を開示する。」 3)「過誤があれば、謝罪をする。」この三つです。この単純で、簡単なことが、病院という組織では、なかなか難しいようです。この三原則を、実際の現場で、どのように実行していくか、その姿勢を全職員全員が共有できるか、とても大きな課題でした。これを病院の文化として、確立することが、当初の私の仕事でした。元鳥取県知事の片山善博氏は「嘘をつけば、結局自分のストレスとなる。」と語っております。うそをつけば、うその上塗りをする事になり、雪印の二の舞となります。隠すことから、何も生まれず、病院自身も傷つきます。

もう一つ大事なことがあります。自分を含め、医療者は「倫理観と責任感をもつべきです。」両者を持たない医療者は、医療現場から退場していただきたい。全職員によく説きます。

これらのお話を、事例を挙げながら、お話をする予定です。

最後に、最近私が行っている地域病院の役割の一つである、看取りについてお話します。